

学校が大好き アクバルくん

ぼくは、アクバル。

山の中にある学校の1年生。

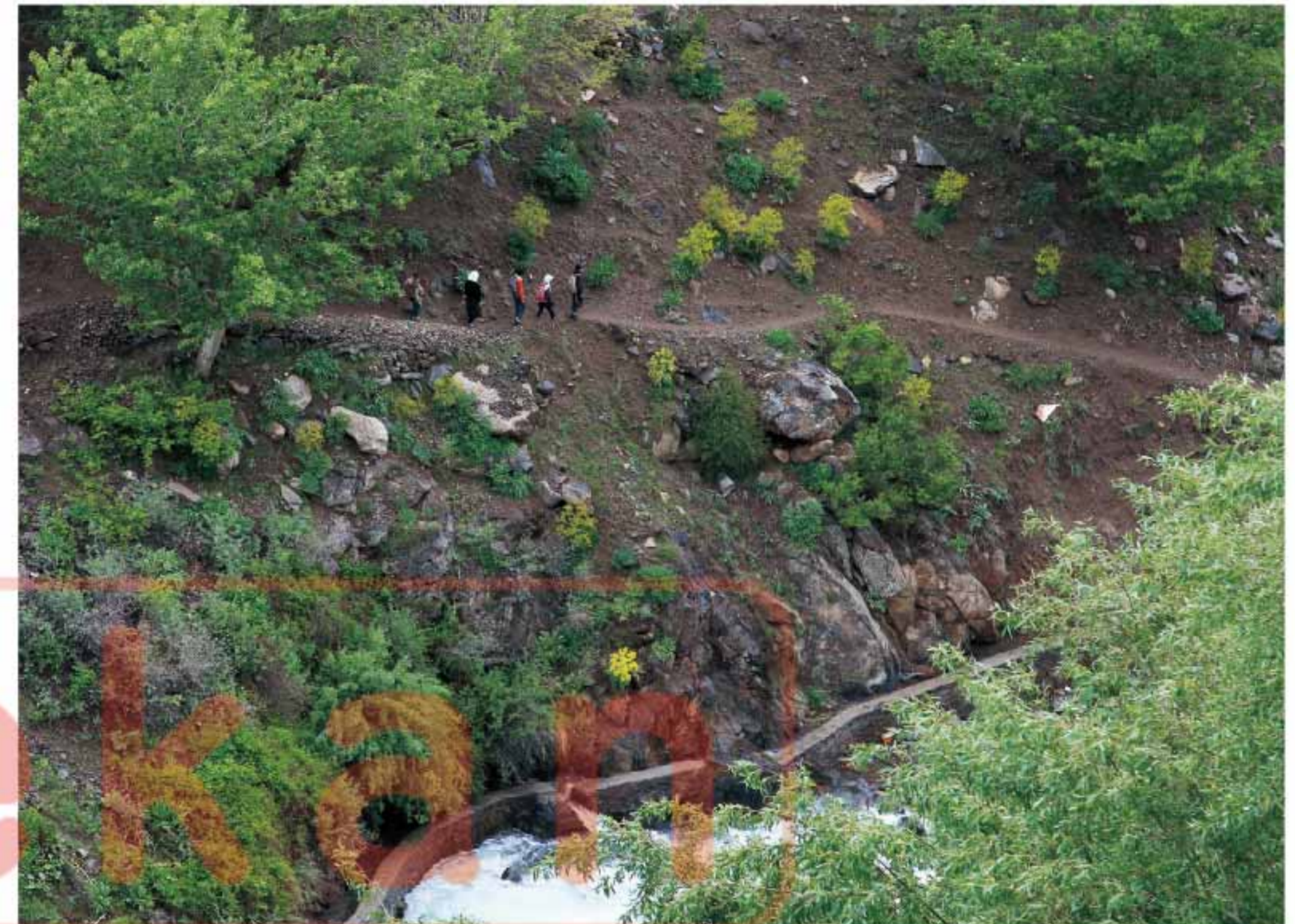
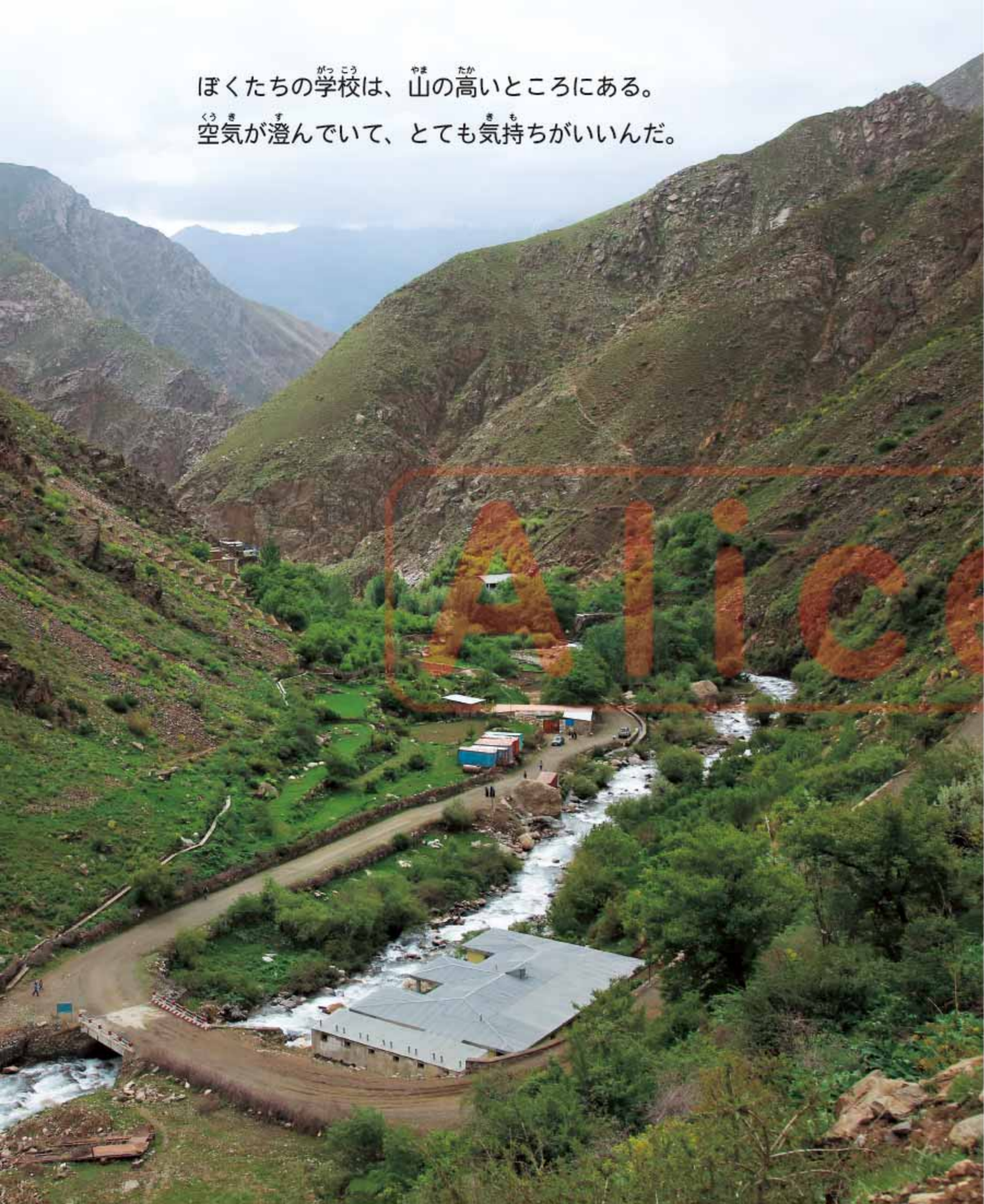
いつも鉛筆をもっている。

これは、魔法の道具なんだ。

Alice



ぼくたちの学校は、山の高いところにある。
空気が澄んでいて、とても気持ちがいいんだ。



山の上の村からも、
下の村からも、
みんなが学校にやってくる。

1時間以上歩いてくる子ども
たくさんいる。





はし 走ってやってくる、2年生たち、
おん せいで
ならんで歩いてくる、3年生たち。
ある
ぼくの同級生もやってきた。

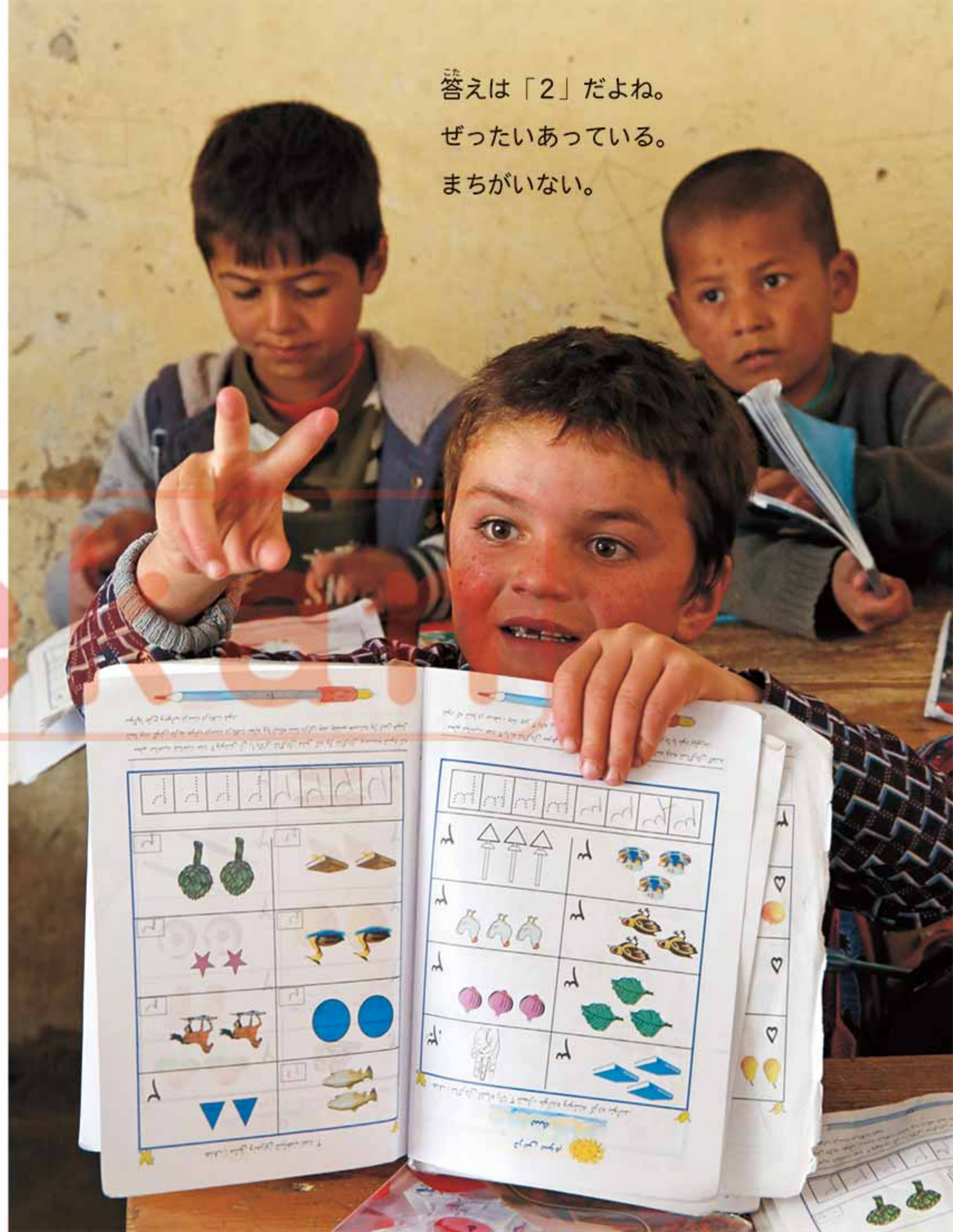
せん せいは、もうきているかな。

Alican

ちょっと自信ができた。
今度はわかるぞ。



答えは「2」だね。
ぜったいあっている。
まちがない。



だれがぼくたちを創^{つく}ったかが、書^かいてあるんだって。

「へえー、そうなのか」

先生^{せんせい}の説明^{せつめい}を聞^きいて、はじめてわかった。

先生^{せんせい}ってすごい！

ぼくの知らないことを、たくさん知^しっているんだ。

ぼくも、もっともっと知^しりたい。



だから、字^じを覚^{おぼ}えなきゃ。

ぼく、書^かくよ。

たくさん、たくさん。

何回^{なんかい}も、何回^{なんかい}も。

